

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	管理会計論Ⅱ Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0070			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	大原簿記学校監修「日商簿記検定2級商業簿記テキスト」大原出版						
担当教員	長谷川 博						
到達目標							
1.株式会社の純資産や企業結合，税金について理解し，正しく会計処理ができる。 2.決算手続きおよび財務諸表の意義を理解し，各財務諸表の作成が十分にできる。 3.連結会計についての意義を理解し，十分に正しく会計処理ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)			標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	株式会社の純資産や企業結合，税金について理解し，十分に正しく会計処理ができる。			株式会社の純資産や企業結合，税金について理解し，正しく会計処理ができる。		株式会社の純資産や企業結合，税金について理解が不十分で，正しく会計処理ができない。	
評価項目2	決算手続きおよび財務諸表の意義を理解し，各財務諸表の作成が十分にできる。			決算手続きおよび財務諸表の意義を理解し，各財務諸表の作成ができる。		決算手続きおよび財務諸表の意義を理解が不十分で，各財務諸表の作成ができない。	
評価項目3	連結会計についての意義を理解し十分に正しく会計処理ができる。			連結会計についての意義を理解し，正しく会計処理ができる。		連結会計についての理解が不十分で，正しく会計処理ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ビジネス界で評価の高い日商簿記検定2級を取得できることを目標に，そのうちの商業簿記の範囲を網羅する。本講義では，経営活動がどのように営まれるかをふまえながら，企業の経営活動がどのように記録，報告されるかを学習するために，生きた簿記の技術を身につけることを目標とする。						
授業の進め方・方法	当科目と並行して原価企画論を修得し，日商簿記検定2級を取得することを推奨する。2級合格に対応できるレベルで講義を進めるため，進度を極端に遅くするわけにはいかない。授業の進度に極力ついてくるように予習復習を行うこと。授業進度は範囲の網羅を優先し，検定受験の際には希望によって対策を行うことを想定している。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習（進む予定の箇所のテキストを読み，理解しにくい点を明らかにしておく）。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題(ワークによる演習とレポート作成による振り返り)。						
注意点	2級ではボリュームが大幅に増え，かなりハードになる。選択学生は，簿記の上位級を身につけることの有利さを理解し，相応の覚悟と目的意識を持って臨んでもらいたい。必要なのは，計画的に学習する意欲とそれを継続する意志なのである。 評価が60点に満たないものは，願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果，単位の修得が認められた者にあつては，その評価を60点とする。評価方法及び評価基準は，本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
必履修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 為替換算会計		外貨建取引，為替予約について理解し，正しく会計処理ができる。		
		2週	引当金		引当金について理解し，正しく会計処理ができる。		
		3週	法人税等		法人税等および税効果会計について理解し，正しく会計処理ができる。		
		4週	株式会社の純資産		株式会社の資本について理解し，株式の発行，株主資本の計数の変動について理解し，正しく会計処理ができる。		
		5週	剰余金の配当等		剰余金の配当等について理解し，正しく会計処理ができる。		
		6週	企業結合		企業結合について理解し，正しく会計処理ができる。		
		7週	株主資本等変動計算書		株主資本の計数の変動について理解し，正しく会計処理ができる。		
		8週	中間試験		中間試験		
	4thQ	9週	連結会計 (1)		個別財務諸表と連結財務諸表について理解し，説明できる。 支配獲得日の連結手続きが正しくできる。		
		10週	連結会計 (2)		支配獲得後の連結手続き，および連結1年度の会計処理が正しくできる。		
		11週	連結会計 (3)		配当金の修正および連結2年度以降の会計処理が正しくできる。		
		12週	連結会計 (4)		連結会社相互間取引の相殺消去，および未実現損益（棚卸資産）の消去について理解し，正しく会計処理ができる。		
		13週	連結会計 (5)		貸倒引当金の調整，および未実現損益（非減価償却資産）の消去について理解し，正しく会計処理ができる。		
		14週	本支店会計		本支店会計の意義ついて理解し，決算手続き，総合損益，合併財務諸表の作成までの会計処理を正しくできる。		
		15週	期末試験		期末試験		

		16週	期末試験の解答		試験返却		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	15	55
専門的能力	30	0	0	0	0	15	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0